

# 日本気象学会 2019 年度秋季大会

## 出展・リクルートブース開設・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり、以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛を頂きました  
(2019年8月22日現在；50 音順)．厚く御礼申し上げます．

株式会社朝倉書店

株式会社ANEOS

英弘精機株式会社\*

株式会社気象工学研究所+

株式会社熊本放送

サイバネットシステム株式会社\*

シュプリンガー・ジャパン株式会社\*

株式会社東京久栄+

日本海洋事業株式会社+

一般財団法人 日本気象協会\*+

一般社団法人日本損害保険協会\*

株式会社ニューテック\*

株式会社プリード

(五十音順)

\*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です．

+は会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です．

# 日本気象学会 2019 年度秋季大会

会期：2019年10月28日（月）～10月31日（木）

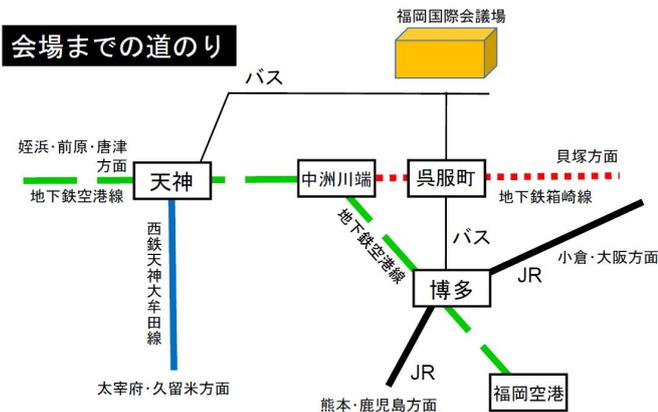
会場：福岡国際会議場

〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町2-1 <https://www.marinemesse.or.jp/congress/>

大会実行委員会担当機関：福岡管区气象台，九州大学，福岡大学

大会委員長：倉内 利浩（福岡管区气象台長）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（福岡国際会議場4階小会議室407）  
福岡国際会議場（代表TEL：092-262-4111）

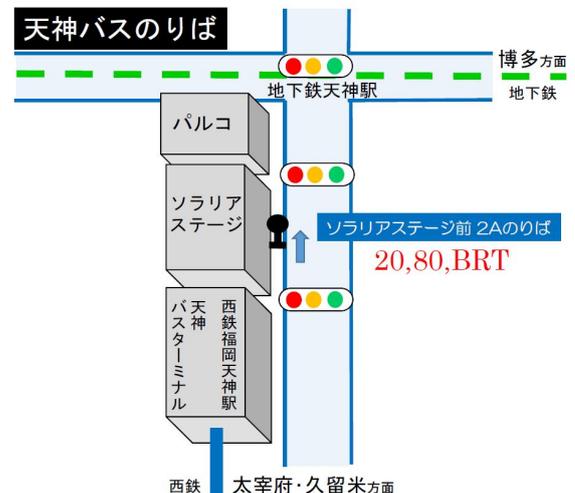
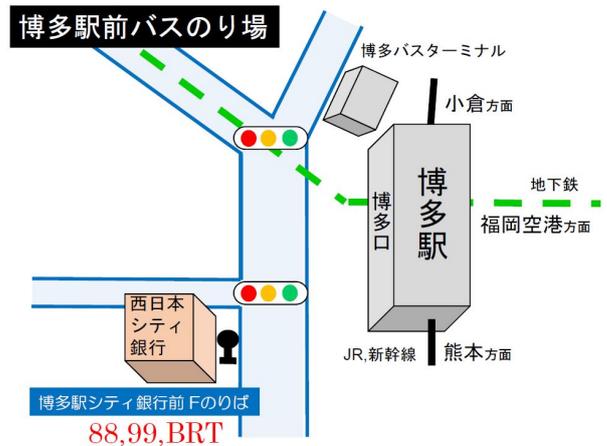
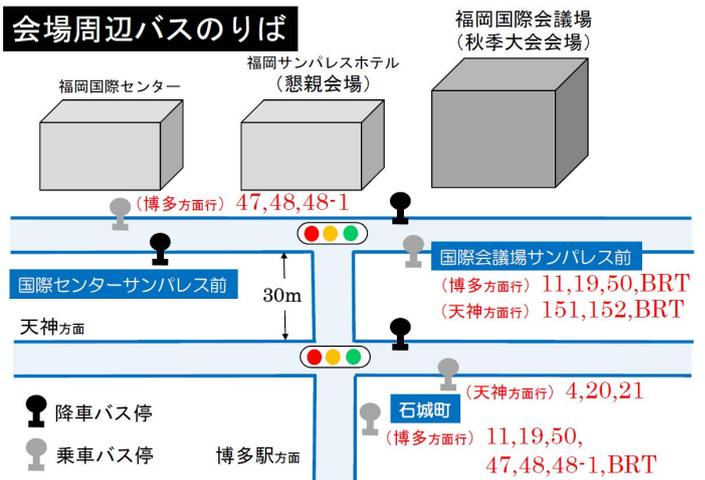


## 会場への主な経路

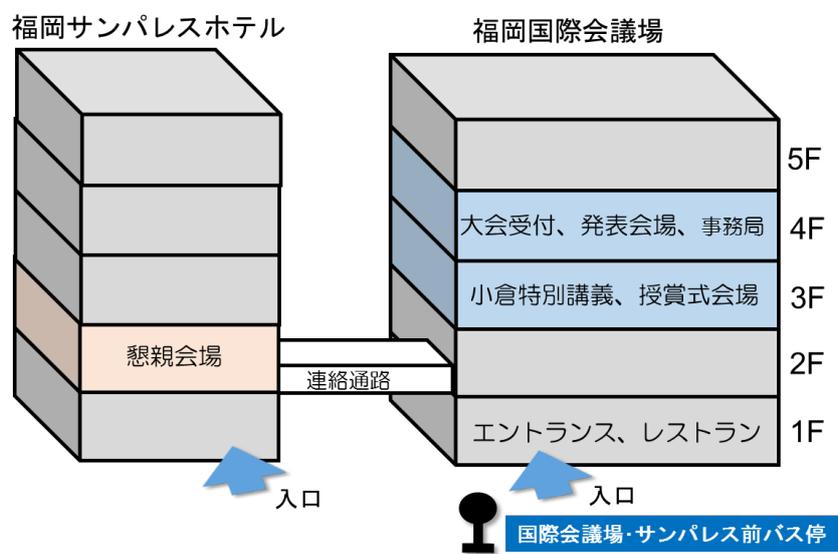
- 航空機（福岡空港）利用の場合  
福岡空港<地下鉄6分260円>博多<バス12分240円>会場
- JR・新幹線（博多駅）・高速バス（博多バスターミナル）利用の場合  
博多駅前<バス12分240円またはタクシー10分1,000円程度>会場
- 西鉄（福岡天神駅）・高速バス（福岡天神バスターミナル）利用の場合  
天神<バス12分190円またはタクシー6分800円程度>会場
- （参考）地下鉄呉服町駅<徒歩約15分>会場

## 交通機関利用にあたっての留意事項

- 会場最寄りの降車バス停は路線によって異なり，博多駅方面からは国際会議場・サンパレス前または国際センター・サンパレス前，天神方面からは国際会議場・サンパレス前または石城町になります。
- 会場は福岡国際会議場です。福岡国際センターではありませんのでご注意ください（特に国際センター・サンパレス前で下車の場合）。
- バス，電車いずれもSUICAなどの交通系ICカードが利用できます。
- 各図の中でバス停に示した数字は行き先番号です。同じルートでも行きと帰りで番号が異なることがあります。
- BRTは黄色い大型の接続バスです。
- 会場から博多駅方面は石城町バス停まで（約200m）歩くと乗車機会が増えます。



大会会場（福岡国際会議場）と懇親会場（福岡サンパレスホテル）の位置関係



# 大会行事予定

A会場 : (4階) 中会議室 411+412 号室  
 B会場 : (4階) 中会議室 413+414 号室  
 C会場 : (4階) 小会議室 401+402+403 号室  
 D会場 : (4階) 小会議室 404+405+406 号室  
 ポスター会場 : (4階) 中会議室 409+410 号室  
 (企業展示・リクルートブース 4階ロビー)

小倉特別講義・授賞式会場 : (3階) メインホール  
 受付 : 4階ロビー  
 大会事務局 : (4階) 小会議室 407 号室  
 懇親会場 : 福岡サンパレスホテル 2階パレスルーム

( ) 内は講演数と講演番号

		A会場	B会場	C会場	D会場
10月28日 (月)	13:30~ 17:15	気象予報 (14, A151~A164)	気候システム I (14, B151~B164)	中層大気 (14, C151~C164)	大気境界層 (10) 大気放射 (5) (D151~D165)
10月29日 (火)	09:30~ 12:00	専門分科会2「藤田哲也生誕100年ーわが国における竜巻研究ー」 (9, A201~A209)	気候システム II (10, B201~B210)	中高緯度大気 (10, C201~C210)	熱帯大気 I (10, D201~D210)
	13:00~ 14:30	第二回小倉特別講義			
	15:00~ 17:30	堀内賞・正野賞・山本賞・小倉奨励賞授賞式 堀内賞・正野賞・山本賞受賞者記念講演			
	18:00~ 20:00	懇親会			
10月30日 (水)	09:30~ 11:45	小倉特別講義連携セッション 「気象力学・気候力学による現象理解の深化」	専門分科会4「気象災害と防災啓発活動について」 (7, B301~B307)	観測手法 (9, C301~C309)	環境気象 (7, D301~D307)
	11:45~ 12:45	ポスター・セッション (90, P301~P390)			
	13:45~ 17:15	専門分科会1 「水蒸気観測技術の進展と豪雨予測への貢献」 (13, A351~A363)	専門分科会5 「人工知能 (AI) は気象学にブレイクスルーをもたらすか?」 (16, B351~B366)	専門分科会3 「雲・降水粒子研究の現状と発展」 (12, C351~C362)	専門分科会6 「複数手法による大気中メタン動態の把握と予測」 (14, D351~D364)
10月31日 (木)	09:30~ 11:45	降水システム I (9, A401~A409)	熱帯大気 II (9, B401~B409)	気候システム III (9, C401~C409)	大気力学 (7, D401~D407)
	11:45~ 12:45	ポスター・セッション (90, P401~P490)			
	13:45~ 17:15	降水システム II (13, A451~A463)	熱帯大気 III (14, B451~B464)	気候システム IV (14, C451~C464)	惑星大気(3) 物質循環システム (10) (D451~D463)

発表件数 : 442 件 (専門分科会 71, 一般口頭発表 191, ポスター180)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について ([https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ\\_kitei\\_copyrightpolicy.pdf](https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf))」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2019a@mri-jma.go.jp) まで。

## 講演の方法

### 一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 14 分 (講演 11 分・質疑 3 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
  - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブルおよび HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
  - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、

座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

### ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、高さ 210 cm × 幅 90 cm 程度となっています (ただし、足元からパネルが立ち上がる点に注意)。
- ・ ポスターの掲示には画紙のみが使用できます。画紙は会場に用意されています。
- ・ ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守をお願いします。
  - ✓ 第 3 日の発表者は 10 月 30 日 09:30~17:00
  - ✓ 第 4 日の発表者は 10 月 31 日 09:30~17:00
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

## 保育施設の紹介について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の紹介と、施設利用費用の一部補助を行います。紹介する保育施設は下記の通りです。

### 保育施設 「リトルワールド博多ぎおん園」

住所 〒812-0038 福岡市博多区祇園町2-11

TEL: 092-262-7177 FAX: 092-292-8282

<http://little-world.jp/gion-top>

※2ヶ月から就学前まで

※初めてご利用の方はメールでのご予約はできません。必ずお電話での予約をお願い致します。

※メールでのご予約は前日、19時までにお願い致します。それ以降の時間のご予約はお受けできない場合があります。

### 保育施設 「おかえりらんど」

住所 〒810-0041 福岡市中央区大名 1-5-3

TEL: 092-753-8551

<https://www.okaeri-rand.net/tenjin/>

※10ヶ月から就学前まで

※予約不要

※お電話によるお問い合わせ: 朝 8 時~深夜 2 時 / (金)(土)のみ深夜 3 時まで。

### 保育施設 「キッズサポート博多中央保育園」

住所 〒812-0039 福岡市博多区冷泉町 2-8-1F

TEL/FAX 092-262-5566

<https://www4.hp-ez.com/hp/kids-support/>

※6ヶ月から6歳まで

※事前にメールもしくは電話で問い合わせを。

また、学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

[https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare\\_support\\_guideline.pdf](https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare_support_guideline.pdf)

上記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局・下記担当者へ 10 月 21 日 (月) までにご連絡下さい。

他の施設を利用される場合にも同様の方法で補助を行います。保育施設の利用を検討されている方は、お気軽に担当者にお問い合わせください。

連絡先 気象学会事務局

E-mail: [chief@metsoc.jp](mailto:chief@metsoc.jp)

TEL: 03-3216-4403

## 大会実行委員会からのお知らせ

事前登録が済んでいる方には、参加票、領収証および大会ガイドブック (冊子) を大会の 2 週間程度前に発送する予定です。1 週間前になっても届かない場合には、実行委員会事務局までご連絡ください。

大会には参加票を必ずご持参ください。会場での受付は不要です。参加票を持参されていない場合には、再発行

が必要となり確認などの手続きで時間を要することがあります。

大会実行委員会事務局の連絡先（大会専用メールアドレス） [fukuoka2019@msj-kyushu.jp](mailto:fukuoka2019@msj-kyushu.jp)

---

## 第二回小倉特別講義

※聴講は無料です。一般の方も参加できます。

日時：2019年10月29日（火）（大会2日目）13:00～14:30

会場：福岡国際会議場メインホール

趣旨：「天気」2018年5月号でご案内した通り、小倉義光先生からのご寄付を基にして設立されました小倉義光・正子基金を活用する一環として、年ごとに設定された研究分野において、国際的に著名な研究者を招聘して広く学会員向けに講演を行っていただく「小倉特別講義」を開催しております。第二回は、気象力学・大気大循環分野を選び、下記の通り実施いたします。学会に出席されない方でも参加可能です。

講師：Prof. Sir Brian J. Hoskins (Chair, Grantham Institute for Climate Change, Imperial College London, and Professor of Meteorology, University of Reading)

講演題目：The Dynamics of Hadley Cells

備考：参加無料。講義は英語で行われます。翌日午前に、関連する小倉特別講義連携セッション「気象力学・気候力学による現象理解の深化」も開催されますので、併せてご参加ください。

---

## 小倉特別講義連携セッション

### 気象力学・気候力学による現象理解の深化

日時：2019年10月30日（水）（大会第3日）9:30～11:45

場所：A会場

使用言語：英語（質疑は日本語も可）

主催：公益社団法人日本気象学会 小倉特別講義実行委員会

趣旨：

毎年世界各地で、豪雨や熱波のような顕著現象や異常天候が発生しています。事前に予測が可能であったとしても、予測情報を生かすためには、現象に対する力学的理解が不可欠です。また、超高解像度シミュレーションや長期再解析データセットや、気候変動予測、高頻度高解像の衛星やレーダー等の新たな観測データから、様々な時空間スケールの現象やそれらの相互作用が見出されています。これらの未知の現象の多くは記述が中心であり、力学的解釈が待たれています。この連携セッションでは、大気大循環変動に関する研究を精力的に行っている専門家に話題提供をお願いし、参加者との議論を通じて、現象の気象力学・気候力学的理解を深めたいと思います。

プログラム：

9:30–9:35 Introduction 榎本 剛（京大防災研）

9:35–10:05 Mode-decomposed equation diagnosis for atmospheric blocking development（モード分解方程式による大気ブロッキング成長の診断）稲津 将（北大）

10:05–10:35

The selective absorption mechanism for the maintenance of a summertime blocking: A case study（夏のブロッキング持続における選択的吸収メカニズム：事例解析）山崎 哲（JAMSTEC）

10:35–11:05 Remote impact of tropical Pacific internal variability on Arctic climate（熱帯太平洋変動がもたらす北極域気候変動）小坂 優（東大先端研）

11:05–11:35 A reconciled estimate of the influence of Arctic sea-ice loss on recent（近年のユーラシアの寒冷化に対する北極海氷減少の影響の定量化）森 正人（東大先端研）

11:35–11:45 Concluding remarks 河谷芳雄（JAMSTEC）

世話人：榎本 剛（京大防災研）、稲津 将（北大）、河谷芳雄（JAMSTEC）

---

## 専門分科会の概要紹介

### 藤田哲也生誕100年一わが国における竜巻研究一

日時：2019年10月29日（火）（大会第2日）9:30～12:00

場所：A会場

趣旨：Mr. Tornado・藤田哲也（1920-1998）は、福岡県北九州市小倉南区中曾根で誕生した。メソ気象学の先駆的論文 Micro-analytical study of thunder-nose を Byers 教授へ送付したことから、シカゴ大学へ招聘された。1953年以降、竜巻などの強風現象が地上に残した地上絵を観測・解析する、独創性に富んだ「藤

田メソド」で業績を残した。彼は、導き出した仮説を、ドップラーレーダーを用いて実証し、メソ気象学を開拓した。竜巻の強さとその被害を定量的に評価した F-スケールとダウンバースト (DB) の発見が著名。DB の発見は、防災と航空機の安全運航に大きく貢献した。藤田の生誕100年を記念して、我が国に於ける、竜巻、DB、レーダー観測、短時間予測、F (JEF) スケール等の報告を歓迎。このテーマは、

藤田博士ゆかりの地である福岡で開催される大会に相応しい。

**世話人:** 橋本昭雄(藤田哲也博士記念会), 小林文明(防衛大学地球海洋学科), 野田 稔(高知大学), 横山辰夫(福岡管区気象台), 中村 弘(藤田哲也博士記念会), 金氏 顕(藤田哲也博士記念会), 藤崎 擴(藤田哲也博士記念会)

### 気象災害と防災啓発活動について

**日時:** 2019年10月30日(水) (大会第3日) 9:30~11:45  
**場所:** B会場

**趣旨:** 日本では、気象災害は梅雨末期や台風などによる大雨が多い。この気象災害の発生は避けられないが、防災への知識や備えがあれば被害を大きく減らすことは可能である。このため気象予報士をはじめ様々な立場の人達が小学校や公民館などで防災知識の普及啓発活動を行っている。また、放送メディアに携わる気象キャスターも多くの視聴者にむけて気象災害と防災への備えがわかりやすく伝えられるよう力を注いでいる。

このセッションでは、色々な立場や場所で防災普及活動を行っている人たちが一堂に会してそれぞれの取り組みを紹介し、問題点や知見を共有し、今後の課題等について議論を行う。

**世話人:** 栗原めぐみ(日本気象予報士会), 園村 伸(日本気象予報士会), 永田健太郎(日本気象予報士会), 早田 蛍(日本気象予報士会), 平松信昭(日本気象予報士会), 岩田 修(日本気象予報士会), 岡田登志恵(日本気象予報士会)

### 水蒸気観測技術の進展と豪雨予測への貢献

**日時:** 2019年10月30日(水) (大会第3日) 13:45~17:15

**場所:** A会場

**趣旨:** 急激に発達する積乱雲がもたらす局地的豪雨、数時間ほぼ同じ場所に大雨をもたらす被害を激化させる線状降水帯等、災害をもたらすシビアストームの機構解明や予測技術の改善にとって、水蒸気情報の改善が必須である。近年、水蒸気観測の技術は急速に発展している(水蒸気ライダーによる鉛直構造観測、気象衛星による中・上層水蒸気の高頻度観測、地上デジタル波放送信号や気象レーダー電波を用いた下層水蒸気観測、精密衛星測位(GNSS)による海上観測や積乱雲スケールの水蒸気変動観測等)。進展する新しい水蒸気観測技術の現状を把握し、豪雨の予測や機構解明への活用に向けた課題を議論したい。観測技術開発やフィールド観測に携わる方、データ同化やモデルへの利用法の研究者、また豪雨の機構解明を目指す立場からの参加をお願いしたい。

**世話人:** 小司禎教(気象研究所), 清水慎吾(防災科学技術研究所, 国家レジリエンス研究推進センター), 瀬古弘(気象研究所), 永井智広(気象研究所)

### 人工知能(AI)は気象学にブレイクスルーをもたらすか?

**日時:** 2019年10月30日(水) (大会第3日) 13:45~17:15

**場所:** B会場

**趣旨:** 気象学では、これまでにデータ同化やガイダンス等において、ベイズ推定やニューラルネットワークといった機械学習手法が用いられてきた。一方で、近年急速に発展してきた機械学習の一手法であるディープラーニング(深層学習)を初めとした人工知能(AI)技術は、様々な分野において活用され、成果を上げている。同時に、観測手法や計算機性能の向上によって、高品質かつ膨大な量の気象データの蓄積が進んでおり、AIの活用によって大きなブレイクスルーを生み出すポテンシャルを秘めていると言えよう。そこで本分科会では、昨年の秋季大会に引き続き、古典的な機械学習手法から最新のディープラーニングまでに関連した研究事例を幅広く募集する。また、総合討論を通して、気象学におけるAIの新しい利活用方法や利活用にあたっての注意点等、将来展望について議論を行いたい。

**世話人:** 松岡大祐(海洋研究開発機構), 筆保弘徳(横浜国立大学), 伊藤耕介(琉球大学), 中野満寿男(海洋研究開発機構), 楠 研一(気象研究所), 大西 領(海洋研究開発機構)

### 雲・降水粒子研究の現状と発展

**日時:** 2019年10月30日(水) (大会第3日) 13:45~17:15

**場所:** C会場

**趣旨:** 雲・降水粒子の生成・成長に関わる素過程は、大気の水・熱循環や放射収支に深く関与する。雲・降水粒子に関する物理過程の解明は、その黎明期には、主に室内実験や地上観測をとおして個々の素過程とそれらを内包する機構解明が進められてきた。また、気球・航空機・地上リモートセンシングによる観測を通して、雲・降水の物理特性の実態究明とともに、雲・降水システムの時間発展と微物理過程との関係が明らかにされてきた。近年では、飛躍的に発展しつつあるリモートセンシング観測・解析技術をもとに、多彩な地上・衛星リモートセンシング観測や数値モデリングを駆使して物理過程の解明が進められている。本分科会では、実験・観測・モデリング等、異なる研究手法を用いた雲粒子の物理過程解明に向けた取り組みに関する講演を募り、雲粒子の物理プロセス研究の現状と展望について相互理解を進め、実験・観測・モデリングの連携につながる足がかりにしたい。

**世話人:** 佐藤陽祐(北海道大学), 岡本 創(九州大学), 高橋暢宏(名古屋大学), 鈴木賢士(山口大学), 橋本明弘(気象研究所), 端野典平(高知工科大学)

### 複数手法による大気中メタン動態の把握と予測

**日時:** 2019年10月30日(水) (大会第3日) 13:45~17:15  
**場所:** D会場

**趣旨:** メタンは短寿命気候汚染物質(SLCP)の1つであり、温暖化と大気汚染の両面で重要な役割を果たすにもかかわらず、大気中の濃度変動メカニズムに

は未解明な部分が多い。メタン発生源には湿原・水田、化石燃料採掘、家畜など異質な起源が複雑に混ざっており、また主要な消失源である大気中でのOHラジカルとの反応は直接観測が困難であるため、メタンの全球収支の正確な定量化は困難である。近年、GOSATなど人工衛星による広域観測、濃度および安定同位体比の高精度測定、大気輸送化学モデル、渦相関法によるフラックス観測、吸収放出モデル、排出インベントリなど、メタン動態を把握するための手法が飛躍的に進展している。そこで本専門分科会

では、大気中の濃度や同位体比の変動、それに影響を与える放出・吸収源、さらに将来予測までを含めたメタン動態に関する幅広い発表を募集し、今後の展開を見据えて成果の共有を図るとともに議論を行いたい。

世話人：伊藤昭彦（国立環境研究所）、梅澤 拓（国立環境研究所）、羽島知洋（海洋研究開発機構）、齋藤尚子（千葉大学）、Prabir Patra（海洋研究開発機構）

## 研究会のお知らせ

大会期間中に研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 気象災害委員会・メソ気象研究会合同研究会

日時：2019年10月27日（日）大会前日 13:30～17:30  
場所：九州大学西新プラザ 大会議室AB 福岡市早良区西新2-16-23 (<http://nishijinplaza.kyushu-u.ac.jp/>)  
コンビーナー：足立 透（気象災害委員会）、坪木和久（メソ気象研究会）

テーマ：「フェーズドアレイレーダーによる気象災害研究の新展開」

内容：局地的大雨や竜巻等突風といった激しい大気現象は甚大な災害を引き起こすため、学術的な理解の深化と監視・予測技術の高度化が重要な課題となっています。このためには、急速に発生・発達する現象の様子を極めて高い時空間分解能で観測する技術が必要です。近年に登場した気象用のフェーズドアレイレーダーは、最短で10秒という短い時間で全天をスキャンするため、気象災害をもたらす大気現象を素早く的確に捉えることを可能とし、高度な防災気象情報につながることを期待されます。今回は、フェーズドアレイレーダーに関する研究開発をテーマとして取り上げ、最新の成果と今後の展望について議論することを目的とします。

#### プログラム：

- 13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明
- 13:40-14:10 「フェーズドアレイ気象レーダの開発概要」 牛尾知雄（首都大）
- 14:10-14:40 「実用型マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダ（MP-PAWR）の開発」 高橋暢宏（名大宇地研）
- 14:40-15:10 「東京オリンピック・パラリンピック等におけるMP-PAWRによる観測・予測情報の利活用に向けて」 岩波 越（防災科研）
- 休憩
- 15:30-16:00 「気象研究所フェーズドアレイレーダーを用いた最新の研究成果とその応用」 足立 透（気象研）
- 16:00-16:30 「Cバンド二重偏波フェーズドアレイレーダーを見据えた新しい技術開発」 松田知也（三菱電機）
- 16:30-17:00 「フェーズドアレイレーダーを用いた研究開発への期待」 新野 宏（東大大気海洋研）

17:00-17:30 総合討論 中川勝広（情報通信研究機構）  
世話人：足立 透（気象研）、坪木和久（名大宇地研）、加藤輝之（気象大学校）、小倉義光（東大大気海洋研）  
問い合わせ先：足立 透（気象研）  
E-mail：[tadachi@mri-jma.go.jp](mailto:tadachi@mri-jma.go.jp)

### 第1回気候形成・変動機構研究連絡会

日時：2019年10月30日（水）（大会第3日）18:00～20:00  
場所：A会場 中会議室 411・412号室  
テーマ：気候形成・変動に関する素朴な疑問

内容：第1回目となる研究連絡会です。そこで冒頭では、本連絡会の代表世話人である植田より、設立の趣旨および気候研究で解決すべき課題例を紹介するとともに、気象庁気候情報課にて長らく季節予報の現業に携わってこられた前田修平氏（現在気象研究所全球大気海洋研究部長）より、気候変動研究に関して、気候系監視・季節予報の現場の視点から話題提供いただきます。後半は聴講者を含めて自由に議論できる場を設けます。なお、本研究会の設立趣旨は以下の通りとなっています。

本研究連絡会は、過去・現在・未来の気候に関する研究者が、対象とする時代や領域に拘わらず、一堂に会することにより、気候諸現象の形成を軸として気候の形成過程に内在する物理過程について情報交換できる場を創出することを目指しています。ここで言う気候諸現象とは、日本の気候に密接に関係する現象を指します（例：梅雨前線、太平洋高気圧、チベット高気圧、ITCZ、ENSO、アジアモンスーン、台風、等々）。

気候変動研究の根幹である気候諸現象の発現・変動機構を、最新の知見を援用し、今日的な気候科学のフレームワークの中で整理・統合することは、喫緊の課題である自然災害のリスク管理に科学的根拠を与えることが期待されます。現在の気候諸現象の研究は、熱帯、中緯度、極域、メソ、季節予報、温暖化予測、古気候プロキシといったように、個々の専門分野の中で、急速な発展を遂げています。そこで、本研究連絡会は、気候変動・変化研究の基盤で

ある気候形成に着目し、様々な時代や地域における素過程について、専門分野の垣根を超えて、議論・整理するプラットフォームとして機能することを目指します。気候研究は本質的に大気以外のサブシステムとの相互作用の研究が重要であります。特に海洋圏、陸圏、生態・人間圏をも含む「系」として捉えることが必要です。本研究連絡会は関連分野との積極的な交流を推進します。

#### プログラム：

1. 趣旨説明 植田宏昭（筑波大）
2. 「気候系監視・季節予報の現場の視点から」  
前田修平（気象研）
3. 自由討論 司会：植田・谷本・立花

世話人：今田由紀子（気象研）、榎本剛（京都大学）、梶川義幸（理化学研究所）、川村隆一（九州大学）、小坂優（東京大学）、高谷康太郎（京都産業大学）、野沢徹（岡山大学）、藤波初木（名古屋大学）、本田明治（新潟大学）、前田修平（気象研）、松本淳（首都大学東京）

#### ホームページ：

<http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~iccv/index.html>

問い合わせ先：植田宏昭（筑波大学）

E-mail: [ueda.hiroaki.gm@u.tsukuba.ac.jp](mailto:ueda.hiroaki.gm@u.tsukuba.ac.jp)

副代表：谷本陽一（北海道大学）、立花義裕（三重大学）

事務局：遠藤洋和（気象研）

#### 統合的陸域圏研究連絡会

日時：2019年10月30日（水）（大会第3日）18:00～20:00

場所：C会場 小会議室 401・402・403号室

テーマ：「林野火災が生み出す気候と生態系のフィードバック」

内容：気候は陸域圏と強いフィードバックを持っている。気候変動や人間活動の結果として炭素や水などの物質循環(biogeochemistry)や物理過程(biophysics)が変化し、それがひるがえって気候に影響を与えているのだ。このようなフィードバックのなかで、特にドラマチックなものが林野火災である。火災は、生態系が長い年月をかけて蓄積してきた炭素を一瞬にして大気に放出してしまう。生物活動が変化することで水循環や栄養循環も変わってしまう。地表面の色を変えることでアルベドにも影響をおよぼす。このように、全球規模で陸域圏にさまざまな影響をおよぼしている林野火災についての包括的な理解が重要である。しかし、sporadicな林野火災の発生とその影響を理解し未来を予測するのはむずかしい。だ

からこそ我々研究者は、さまざまな努力と工夫を行う必要があるのだ。

今回の研究会では、平田竜一氏（国立環境研究所）を話題提供者に招き、気候変動との強いフィードバックが懸念されている熱帯泥炭地における林野火災の影響についての研究成果をご紹介いただく。熱帯泥炭地における観測と炭素循環の動態予測は気候変動研究にたいへん重要であるため、今後の研究の発展についても議論を行う。さらに、北方林での林野火災についての研究者にもご登壇いただく予定である。

問い合わせ先：伊勢武史（京都大学）

E-mail: [ise@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:ise@kais.kyoto-u.ac.jp)

#### 第6回気象学史研究会

日時：2019年10月30日（水）（大会第3日）18:00～20:00

場所：D会場 小会議室 404・405・406号室

テーマ：地形から見た気象災害の歴史

内容：今回の気象学史研究会は、「地形から見た気象災害の歴史」をテーマに、特に豪雨による土砂災害や洪水災害の発生に関し地形学や地域開発学の視点から考察します。黒木氏からは「気象災害の地形学的な見方・考え方」と題して、社会科教育の教員の立場から十分に浸透していない気象災害の地形的理解等についてご講演をいただきます。また、コンビーナの山本氏からは近年日本各地で発生した大規模な水害について、現地踏査やアンケート調査、地図や空中写真等を用いた扇状地や氾濫平野の開発による土地利用の変遷を分析し、それぞれの災害地における地域開発と災害発生との関係についてご講演をいただきます。

本会合は気象学史研究に関心を持つ、より多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催いたします。

#### プログラム：

「気象災害の地形学的な見方・考え方」 黒木貴一（福岡教育大学）

「土地利用の変遷から見たわが国で発生した気象災害の特徴」 山本晴彦（山口大学）

コンビーナ・司会：山本晴彦（山口大学）

問い合わせ先：山本 哲（気象庁観測部）

TEL 03-3212-8341（代表）

メールでのお問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

---

## リクルートブースの設置について

4階ロビーにリクルートブースを設置します。優秀な人材を求める企業等との出会いの場としてぜひご利用ください。参加企業、開設の時間帯などは、事前にご送

付する大会ガイドブック（冊子）に掲載する予定です。大会ガイドブックは当日参加申し込みの方は受付においてお渡しします。

---

## 2020 年度春季大会の予告

2020 年度春季大会は、2020 年 5 月 19 日（火）～5 月 22 日（金）にカルッツ川崎で開催される予定です。大会告示は「天気」12 月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは 2020 年 2 月頃となる予定です。